

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202099		
法人名	有限会社ソルテク		
事業所名	グループホーム朋寿		
所在地	岡山県倉敷市玉島柏島1666-1		
自己評価作成日	平成22年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慢性的な介護従事者不足と職員の資質向上の為、本年度よりキャリアパスを導入(資格取得の為の支援)。又12年10月1日に開所し10周年を迎え介護の原点に立ち返り職員全員が参加して意見を述べる事が出来る会議を実施し、より良いサービスの提供を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日の朝礼時に参加者が朋寿の理念を唱和し初心を忘れず努力されている姿が伺えました。 思考錯誤の結果、書類の整理がされ、その結果が業務にも反映されていました。地域公民館、いきいの場、体操教室、介護教室に参加し地域の一員として交流がなされていました。 入居者さまも穏やかな表情で普通の暮らしをされ、職員も明るく、優しく支援されていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人、内部研修は必ず管理者による事業所理念の研修から始まる。一瞬、一瞬であってもふれあう人々に笑顔で挨拶をかわすことを忘れず地域の方と接し、ホームのご利用者が地域住民として温かい環境で暮らせるよう支援している。	入所者・ご家族・地域住民と依りよい人間関係づくり、職員同士の依りよい信頼関係構築のために、理念を共有し思いやりの気持ちを伝える支援がされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年度より、地域公民館やいこいの場で行われる体操教室、介護教室等に参加し、町内、老人会の方々との交流に取り組んでいる。	入所者が地域の一員として暮らせるように、地域公民館、憩いの場に出かけ、職員も顔見知りの関係を作る様にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して下さる、地域の方に本年度おきたグループホーム火災について意見交換を行い、認知症を理解した避難方法、また、地域住民の協力の必要性を発している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告、意見交換、現在の取り組みについて報告し、地域、家族の方の意見をサービス向上にいかしている。(消火訓練、感染症対策、レクリエーション、家族の思い等)	運営推進会議を開催し、参加者へ現在の事業所で取り組んでいる内容について詳細に報告し、意見等も頂、サービス向上にいかしている、又他のグループホームとの交流もされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険に関する疑問、質問は聞いているが協力関係ができていないとは思えない	行政との密な関係構築が、出来るように努力している。行政からの助言を頂くがまだ、目に見える成果までにはいたっていないようである。	前向きに市との関係構築に努力をされているようですが、まだ十分とは言いがたいようである、この後も関係作りに努力してください。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間に追われた業務の見直しをし、介護従事者が心身にゆとりをもち、一人一人の利用者に寄り添うケアを実施し身体梗塞をしないよう取り組んでいる。研修会の実施	身体拘束は原則しないと決めている。理念の中に「…出会いを大切に、笑顔あふれる…」心身ゆとりを持って、問題が有れば原因を探り家族と話し合い最良の方策を取る様に心がけている。研修会の実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修に職員全員が参加できるようにし、虐待防止への理解を求めている。また、介護従事者がストレスをためない現場づくりに取り組んでいる。		

評価票(項目No.1~55)(全体)(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	DVDなどでわかりやすい勉強会をした。認知症においてもその人らしく地域でくらすよう支援する必要がある		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	まず、見学をしていただき、入居前に重要事故説明書の説明を行い、十分な理解をしていただき契約を行う。改定の際は契約者様に封書にて送付し必ず同意を得てから行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族全員に運営推進会議の案内を送付し、参加を促し、意見を求めている。また、面会簿に、意見を書いていただく欄を設けている。	ご家族様が運営推進会議に多数参加していただき、貴重な意見をいただき運営に反映させている。認知症に関してもビデオを活用して病状に関する理解を深めている。面会簿に意見など書いて頂く欄を設け運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月の職員会議、チームカンファを行い、意見を、要望を求め、役員会で検討し、反映させている。	月1回職員会議で職員の意見等を役員会で議題に上げ運営に反映させている。(月1回のお店、まごころ亭、介護福祉士資格取得希望、休み等)	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続慰労制度、キャリアパス制度の規定を設け向上心をもって働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や力量にあった、法人内外の研修参加の機会をつくり、現場で生かせるよう働きかけている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡山県認知症グループホーム協会に加入、報告、研修会、分科会に参加。また、他グループホームへの運営推進会議参加。		

評価票(項目No.1~55)(全体)(1)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症の方は自分の思いをスムーズに訴えることができない方が多い。耳を傾けるというよりも、ゆっくり寄り添い、なにを求めているかを探し、笑顔で安心して過ごせるよう支援している。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画に家族要望を取り入れている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接の段階で本人、家族が必要としているまた、必要となるサービス利用も見極め、説明している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活暦を大切にしている。主婦として、職人として誇りを持って生きてきた高齢者には認知症であっても残っている能力がある。時に師匠となり、介護者に教えていただきながら、支えあう関係を築いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子は1回/月の「朋寿だより」似て知らせている。また、その際、行事等の参加もお願いしている。状態変化あるとき、医療機関は家族の意向を取り入れる。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの面会ある時は場所の提供をし、団欒の時間を大切にする。馴染みのある場所への外出援助を支援している。	面会に来られた方との、団らんの時間を楽しめる心配りができていました。中にはうどん作り(手うち)と一緒に挑戦され、馴染みの関係が途切れないよう支援されていました。入所前の行きつけの場への外出支援もなされている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各棟、個々の性格を把握し、それぞれのいい力が出せるよう努めている。また、全員の利用者が関わりあえるように合同のレクリエーション、行事を豊富に取り組んでいる	

評価票(項目No.1~55)(全体)(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あらゆる種類のサービス終了がある。入院、終末転所等、必要に応じ機関への情報を提供し継続的なフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を確認するのは難しい。生きてこられた生活歴を大切に家族の声を聞きながら、日々の関わりのなかで表情、状態の観察を行い検討しプランに取り入れている。	ご家族とよく話しをするよう心がけ、意向の確認に努めている。日々の関わりの中でそれとなく確認出来るように声掛けをして今必要で適切なプランを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、サービス関係者から情報を収集し、これからの生活に取り入れていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢者の方はなんらかの疾患を持っておられる方が多い。心身の状態を観察しながら、今出来ている事が維持でき充実した日々が過ごせるよう状態の変化が観られるときは記録に残し、早期対応を行っている。(都度カンファレンスを行う)		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本年度より、ケアプランカンファには看護師、家族にも参加していただき、十分な会議のもとプランの作成を行っている。	本年度より入所者主体の暮らしの中で看護師、家族にも参加依頼され大勢の参加者で、思いや意見を聞きケアプランを作成している。	今後もモニタリングとカンファレンスを継続し、その人らしい生活が送れるようなケアプランに成るよう一層の努力をされたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	チームの申し送りは必ず個人記録をみながら行い、なんらかの変化観られるときは原因と対応を検討しチームで統一できるようプランに取り入れていく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、外出の援助。食事形態の工夫等一人ひとりが不安なく笑顔で暮らせるよう生まれてくるニーズに取り組んでいる。		

評価票(項目No.1~55)(全体)(1)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への買い物、入所前より通っている医院への通院介助。また、近くの畑の水やりをし、野菜の収穫を喜んだ。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、入所後も状態に応じ希望の病院を必ず聞いている。また、家族同行のかかりつけ医であっても状態の変化が著しいときは職員も同行し適切な指示を仰ぐ。	本人、家族が希望する掛かり付け医での受診が受けられる様支援している。家族同行での受診、介護が必要な方や緊急時の場合職員が同行し必要、適切な指示を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置している。毎日の申し送りで報告している。また、申し送りで挙げられた方は必ず状態観察をし、受診必要なとき早期に受診している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供している。また、状態の把握と本人、家族の不安を取り除くため、できるだけの見舞いを行い、医療機関医師と早期退院に向け話あっている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い、事業所が対応しうる最大の支援方法を説明し、医師、看護師、管理者、チーム職員と話し合い、家族が納得のもと「意思確認書」を作成する。また、その後も状態に応じ随時意思を確認しながら取り組んでいく。	重度化に伴う意思確認書を作成し。事業所ができて限りのケアについて説明を行っている。その後も状態に応じ意志を確認しながら取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が救命講習を受けている。また、定期的に内部研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は年2回行っている。また、推進会議に消防職員が参加している。地域との協力体制はできていない。11月に地域の方と一緒に訓練を行う予定。	年2回消防訓練を行っている地域の方と一緒に訓練も計画 実施予定されている。	水害・台風・地震に対する具体的な対応策と、訓練計画作成の上実施される事を期待します。	

評価票(項目No.1~55)(全体)(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チームスタッフは利用者の歩んできた歴史(生活歴)を必ずみて、誇りを持ってその人らしく生活できるように、一人ひとりにあった言葉かけをしている。自室に入るときはノック、声かけは必ず行う。	本人の気持ちを大切に考えたケアがなされており目立たず、さりげない言葉掛けが見られた。接遇についての教育にも努力をされていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症のため、意思を表すことが出来ない事がある。日々の生活の中から表情を観察し、本人の思いや希望を見つけていく必要がある。介護時にあたっては、必ず意思を確認する		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活であっても個々のホームであることを大切に一人ひとりの過ごし方を優先し、穏やかな生活を支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症のため自らおしゃれを楽しむ事は難しい。洋服の趣味、好み等ご家族に伺い支援し、外出時は洋服、化粧等でおしゃれを援助する。また、月に1回訪問理美容を利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月「まごころ食堂」を開店し、外食気分をあげ楽しむ。また、毎日の食事準備、かた付けは利用者のADLにあった担当を職員と一緒にやる。	どのようにしたら食欲がわくのか一人ひとり把握して、まごころ食堂、を開店させ、うどん作り(だし、匂い、作る音)おでん、焼きそば等、入所者の力を発揮することが出来ており、調理、盛りつけ、片付けを配分する事で自信につなげていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	高齢者においては、何らかの疾患を持っているため、疾患に応じた食事内容、水分量に配慮している。また、栄養バランスに変化が見られるときは早期に受診し、医師との連携を保っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけ、誘導、全介助等それぞれにあった口腔ケアを援助している。また、うがい困難な方は専門職(訪問歯科)に聞き行っている。		

評価票(項目No.1~55)(全体)(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の利用や一人ひとりのサイン等を見つけたパターンにあったさりげない誘導をおこなっている。日常生活自立度にあわせた排泄支援をプライバシーを守りながら行っている。	自尊心に配慮し、個々のパターンを把握して身体機能に応じた、歩行の介助、トイレでの排泄等、一人ひとりの自立に向けたさりげない支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝一番での水分、バランスのとれた食事内容、長時間での座位、適度な運動、ストレスをためない、排便のサインあるとき「まった！」をしない等、個々に応じた予防と対策を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏場は日曜日以外、毎日全員入浴を行っているが、入浴時、有無の確認をしている。また、皮膚トラブルある方は清潔保持のため毎日行うよう支援している。石鹸は個々にあったものを使用している。	一人ひとりの気持ちや今までの生活習慣に合わせた支援をしている。仲の良い方同士一緒に入る利用者もお入り入浴を楽しんでいる、皮膚トラブルのある方は個々に合った石けんの使用がなされている入浴拒否の人にも言葉かけや対応を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疾患、日々の状態にあわせ休息を取り入れている。また、出来る事への援助を日中になるべく行いストレスをためず気持ちよく良眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方されたときは申し送りし、内容をチームスタッフ全員が確認する。また、定期薬を含め服薬確認表に処方内容、用法、効能を記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時、本人、家族に生活歴、嗜好品、趣味、楽しみ等を聞いている。一人ひとりのADLにあわせ家事、手作業、趣味等、楽しみのある生活作りの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外食、買い物等は希望を聞き支援する。また、自宅外出は家族と協力している。長年気にされていた墓参りに地元の方の協力で実現できた。	外食、買い物は希望を聞き積極的に外出している。自宅外出は家族の協力で出来ている。念願であった墓参りについて、3~4時間かけ墓地を地元の方が探して下さり実現された。	

評価票(項目No.1~55)(全体)(1)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問パン屋や買い物は本人がなるべく支払えるよう支援している。。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「電話をかしてください」と言われるときがある。電話番号は職員がプッシュし本人とかわる。手紙のやり取りは難しい為、職員がメモを添え写真を送付する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は玄関よりバリアフリーになっているため車椅子自走の方も自由に動ける。また、トイレは各棟に三ヶ所あり混乱を招く事はない。中央フロアが広く、明るい外の四季が楽しめる。	共用空間は、バリアフリーであり、トイレは各棟に3箇所があり、自分の力でその人らしく過ごせる様工夫と配慮がされていた。四季が楽しめる広いフロアもあり又利用者と一緒にその人その人の感覚や価値観を表現する為壁画が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関、廊下、中央フロア思い思いに過ごせるよう椅子やテーブルを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、なるべく環境を変えないようにするため使い慣れた家具、寝具等を持参していただいている。	初めて入所される人には昨夜まで使用していた寝具を持参して頂く様お願いしている。ダンス、写真、その他思い出の品々が持ち込まれ一人ひとりの利用者の居心地のよさを配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、自室に手すりをつけている。毎朝9時にはラジオ体操の音楽をかける。声をかけなくても自然に出てこられる。		